

# 国指定重要文化財

おいねづかほにわかまあと

# 生出塚埴輪窯跡出土品図録



生出直(おいねのあたひ)



八手状に延びる埴輪窯跡



15号窯跡人物埴輪出土状態



貴人埴輪

平成17年6月9日付けで、生出塚埴輪窯跡出土品70点(埴輪・土師器・石製品)が国の重要文化財に指定されました。

生出塚埴輪窯跡は、東国最大級の埴輪製作跡で、5世紀末から6世紀末の約100年にわたって操業されていたことが明らかになっています。これまでの調査で円筒埴輪や各種の形象埴輪(人物・動物・器財・家)が多量に出土しており、その量・質とも国内屈指の内容を誇っています。なかでも武人埴輪1体と貴人埴輪3体は、それぞれが高さ130cm前後を有する全身像人物埴輪で造形的にも優品であり、生出塚工人集団の窯業技術の高さを物語っています。

また、本窯の製品は、埼玉古墳群をはじめとして、千葉県市原市山倉1号墳など東京湾沿岸地域の古墳へ供給されたことが判明しており、埴輪の生産と供給の様子を知るうえで大変貴重な資料です。



## 人物埴輪（16点）

人物埴輪は、起源神話に見られる殉死の代用として立てられたとする説が否定されて以来、その出現の由来は今日でも埴輪最大の謎となっています。人物埴輪は、埴輪の発祥地である畿内では5世紀中頃に出現したことが明らかになっていますが、約350年間続く「埴輪の時代」の中ではやっ後半期に仲間に加わったに過ぎません。

人物埴輪を中心に展開する埴輪群像の解釈については、今までにいろいろな学説が出されていますが、すべての場景を説明するにはそれぞれ一長一短があってどれも定説とはなっていません。



1. 武人埴輪（高さ127cm）



2. 貴人埴輪1（高さ132cm）



3. 貴人埴輪2（高さ131cm）



4. 貴人埴輪3（高さ135cm）



5. 両手を前方に出す女子(高さ83cm)



6. 鈴鐺を腰にさげる女子(高さ70cm)



7. 頭巾を被る男子A(高さ63cm)



8. 鍬をかつぐ農夫(高さ55cm)



9. 振り分け髪に美豆良の男子(高さ60cm)



附7. 女子埴輪(高さ34cm)



附1. ちぢれ髪の男子(高さ28cm)



附2. 笄(こうがい)状の被り物の男子(高さ22cm)



附3. 頭巾を被る男子B(高さ22cm)





附4. 頭巾を被る男子C(高さ26cm)



附5. 分銅形の髷の女子(高さ20cm)



附6. 顔を赤くぬる女子(高さ19cm)

### 動物埴輪 (11点)

動物埴輪の一般的な種類は 馬・猪・犬・鹿・鳥で、特に馬は重要な動物であつたらしく全国的に広く見られます。また、鳥には鶏・白鳥・鴨・鶴・鶺鴒などが見られますが、造形から種類を特定することが難しいものもあります。

動物埴輪は、鶏など一部の種を除いて人物埴輪と同じく5世紀中頃から登場しており、出現の背景には人物埴輪と密接な関係があつたことが知られています。



18. 飾り馬1(高さ82cm)



附9. 飾り馬3(高さ100cm)



附8. 飾り馬2(高さ81cm)



附10. 裸馬1(高さ86cm)



附11. 裸馬2(高さ80cm)



附12. 水かきを表現する白鳥(高さ70cm)



附14. 猪(高さ14cm)



19・20・21. 水鳥(鴨1・2・3)  
(中央・高さ7.5cm)

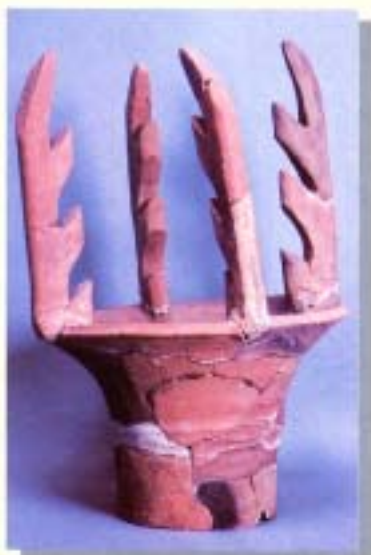


附13. 鹿(高さ14cm)

### 器財埴輪 (10点)

器財埴輪は、武器や武具、威儀具(權威の象徴)、器物をかたどったものです。武器には大刀・鞍・矛・弓があり、武具には盾・柄・甲冑があります。また、威儀具としては蓋・鬘が代表的なものです。さらに器物として椅子・高坏・舟・帽子などが知られています。

器財埴輪は、埴輪の出現以来長い期間にわたって形象埴輪の首座を占めているため、種類によって消長があります。



10. 蓋(きぬがさ・立ち飾り部)(高さ42cm)



14. 鞍(とも)(高さ52cm)



15. 鬘(さしば)(高さ78cm)



10・13. 蓋(組合せ式)(13・高さ88cm)



10・12. 蓋(組合せ式)(高さ120cm)



16. 鞍(ゆき)(高さ82cm)





附15・16. 大刀1・2 (右・高さ42cm)



附17. 矛(ほこ) (高さ22cm)

### 家形埴輪 (2点)

家形埴輪は、埴輪の出現当初から見られる器種で、埋葬施設のある埴頂部などに置かれているので、霊の宿る依代であるとか豪族の屋敷を表したものと考えられています。また、家形埴輪は、屋根の構造から入母屋造・寄棟造・切妻造の大きく3つの形態があります。

### 円筒埴輪 (20点)

円筒埴輪は、もともと壺を乗せた特殊器台から発展したもので、筒状の普通円筒埴輪と、壺と器台が合体した形で口縁部が大きく開く朝顔形円筒埴輪に分けられています。この埴輪は古墳の周りに垣根のように巡らすことにより、死者の眠る聖域(神聖な場所)を区画する役目を持っていると考えられています。



17. 寄棟造の家(横位凸帯) (高さ67cm)



附18. 寄棟造の家(格子目凸帯) (高さ78cm)



22・23・24. ミニチュア円筒埴輪 (左・高さ7.8cm)



25. 円筒埴輪 (高さ44cm)



26. 円筒埴輪 (高さ47cm)





30. 円筒埴輪(高さ39cm)



31. 円筒埴輪(高さ38cm)



32. 円筒埴輪(高さ44cm)



27. 円筒埴輪(6条凸帯)  
(高さ64cm)



33. 円筒埴輪(高さ47cm)



34. 円筒埴輪(高さ46cm)



35. 円筒埴輪(高さ45cm)



28. 円筒埴輪(8条凸帯)  
(高さ83cm)



36. 円筒埴輪(高さ43cm)



37. 円筒埴輪(高さ47cm)



38. 円筒埴輪(高さ45cm)



29. 朝顔形円筒埴輪  
(高さ65cm)



39. 円筒埴輪(高さ42cm)



40. 円筒埴輪(高さ49cm)



41. 円筒埴輪(高さ47cm)



## 土師器 (5点)

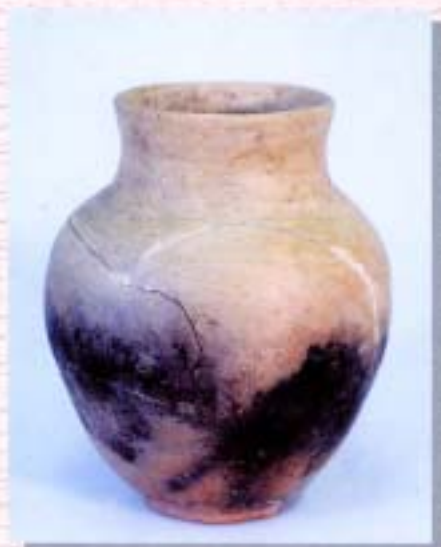
土師器は、埴輪製作工人たちが窯場で日常使用していた土器類で、それぞれ窯体部や灰原付近から出土しています。これらの土器の形態から操業年代を知ることができます。



1. 坏(つき) (高さ3.9cm)



4. 鉢(はち) (高さ16.4cm)



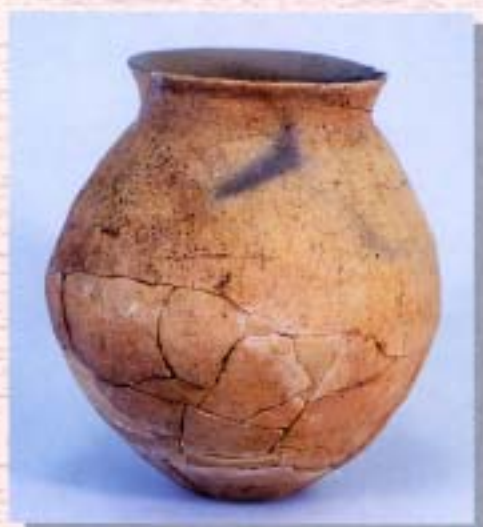
2. 壺(つぼ) (高さ22.6cm)



3. 甕(かめ) (高さ33.0cm)

## 石製品 (6点)

埴輪窯跡周辺からは、滑石製の横造品(勾玉・剣形・双孔円板)が発見されています。このことから、カマド(火)神カマドノカミに対して窯鎮めカマドノシメなどの祭祀が行われていたと考えられます。



5. 甕(かめ) (高さ20.6cm)



1~6. 勾玉・剣形・双孔円板(勾玉・長さ2.7cm)

※写真キャプションの数字は、重要文化財指定一覧表の番号です。

国指定重要文化財

生田塚埴輪窯跡出土品70点・内訳(埴輪41点・土師器5点・石製品6点・附埴輪残欠18点)

(国重要文化財指定記念) 鴻巣の文化財 第6号

### 国指定重要文化財 生田塚埴輪窯跡出土品図録

平成17年10月31日

編集 鴻巣市教育委員会  
発行 鴻巣市教育委員会・鴻巣市遺跡調査会  
監修 鴻巣市文化財保護委員会

